

市街地空間におけるバリアの実態に関する研究（その2）

－習志野市津田沼1丁目地区－

日大生産工（院） ○野田 りさ 日大生産工 川岸 梅和
日大生産工 北野 幸樹

1. はじめに

ニルス・エリク・バンクーミケルセン（デンマーク）が障がい等で人を差別せず、互いにありのままの姿を受け入れることが可能な社会を目指すノーマライゼーションという理念を提唱しておよそ50年、都市圏域の市街地空間の整備や生活する人々の意識においてその理念は実現されている状況であるとはいえず、未だ数多くの障壁（バリア）が存在すると言えらる。

本研究では、千葉県習志野市津田沼1丁目地区を対象とし、目視・実態調査及び店舗管理者に対するアンケート調査、来街者に対する聞き取り調査からバリアの実態について把握し、今後の駅前商店街におけるバリアフリー（以下BF）及びユニバーサルデザイン（以下UD）の有り方についての傾向特性を明らかにすることを目的としている。

2. 調査概要

2-1. 調査対象地域（図1）

千葉県習志野市津田沼1丁目地区における津田沼1丁目商店街は主に、大型小売店2店舗を有し、平日には45,000人程が行き交う大通りである「ぶらり東通り」、JR線路沿いに位置する「はまゆう通り」、大型ショッピングモールを有する「さくら公園通り」の3つから成り立っている。また2つの駅（JR及び新京成）を有している。

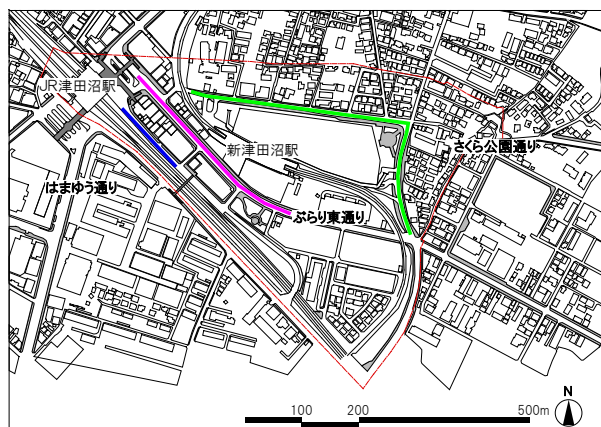


図1 調査対象地区（津田沼1丁目地区）

2-2. 調査方法

1) 目視・実測調査（表1）

調査対象地域において各施設に対するアクセス状況（歩道から建物への入り口・昇降手段等）の目視・実測調査を実施した。

2) 店舗責任者アンケート調査（表2）

津田沼1丁目商店街において営業を行っている店舗管理者にアンケート調査（2010年8月）を実施、アンケート調査は、津田沼1丁目商店街を通じて、各店舗に配布、後日各店舗を訪問し、回収を行った。調査内容は主に、津田沼1丁目商店街で店舗を営業している年数やBF及びUDに対する意識等である。

3) 津田沼1丁目地区における聞き取り調査（表3）

津田沼1丁目商店街利用者に直接聞き取る方法による調査（2010年7・8月）を実施した。聞き取り調査は、10：00～18：00の間に商店街内で実施、調査対象者数は357名（男性167名、女性190名）である。尚、調査概要は表3に示す通りである。

表1 目視・実測調査概要

アプローチ	歩道～出入口	奥行、高さ
	段差解消ステップ	有無、幅、奥行、高さ、材料、個数、色
出入口	出入口	出入口の数、幅
	戸	種類、開閉の自手動
傾斜路	段差	有無、高さ
	段差解消ステップ	有無、幅、奥行、高さ、材料、個数、色
階段	スロープ	有無、設置場所、幅、踏み場の有無、材料、色
	手すり	有無、設置場所、高さ、径（縦×横）、材料、色
階段	段差	有無、種類、幅、踏み、路面、段数、踏み場の有無、材料、色
	障害物	有無、種類
手すり	点字ブロック	有無
	手すり	有無、設置場所、高さ、径（縦×横）、材料、色
昇降機	エレベーター	有無、必要階への停止の有無、定員、入り口幅、停止予想階の表示の有無、音声案内の有無、エレベーター機種の有無

表2 アンケート調査概要

店舗責任者アンケート調査		
配布部数	回収部数	回収率
133	75	56.4%

表3 津田沼1丁目地区の聞き取り調査概要

津田沼1丁目地区 聞き取り調査		
年齢層	男性(人)	女性(人)
7～12歳	167	190
13～18歳	11	10
19～24歳	12	22
25～29歳	15	12
30～34歳	10	10
35～39歳	10	11
40～44歳	10	13
45～49歳	12	11
50～54歳	10	10
55～59歳	11	13
60～64歳	12	19
65～69歳	10	13
70～74歳	12	11
75～79歳	12	10
80歳以上	10	12
総数	357	

Research on the Realities of Barriers in Urban Areas

－A Case Study in Tsudanuma District of Narashino City－

Risa NODA, Umekazu KAWAGISHI and Koki KITANO

3. 調査結果

3-1. 目視・実測調査結果

3-1-1. 調査対象施設の実態把握（図2）

3つの通りから形成される津田沼1丁目商店街における対象施設の実態を各通り別に明らかにした。「ぶらり東通り」は銀行等の金融業施設も多いなか、総施設数の35.4%が飲食施設となっている。「はまゆう通り」は販売施設・店舗や病院が多く、「さくら公園通り」は病院や美容室等のその他の商業施設が多い。

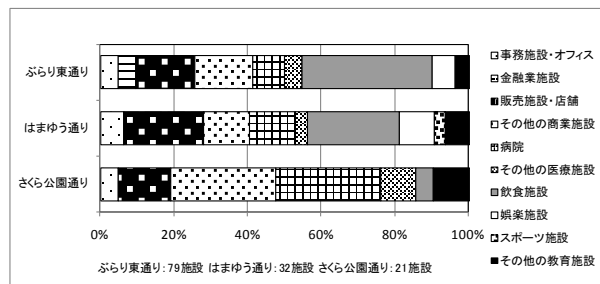


図2 調査対象施設の実態

3-1-2. バリアの実態把握（1階施設）（表4）

1階施設において各建物への歩道から入り口間における物理的バリア（段差）の実態は表4に示す通りである。ここから津田沼1丁目商店街1階施設全体の49.2%において、歩道から入り口間に段差を感じず出入り出来るという結果が明らかとなった。同時に、通り別にみると段差がない施設が16施設、段差はあるがスロープ等を設置し、段差解消が行われている段差解消施設が2施設のぶらり東通り（段差解消率54.5%）が最も段差という物理的バリアを感じず、建物内に入ることが可能な通りであることも明らかとなった。

表4 バリアの実態（1階施設）

	ぶらり東通り	はまゆう通り	さくら公園通り	全体
施設総数	33	9	19	61
段差がない施設	16	3	6	25
段差解消施設	2	0	3	5
段差解消率	54.5%	33.3%	47.4%	49.2%

単位：施設数

3-1-3. 昇降手段の実態把握（複数階施設）（図3）

調査対象地域において2階施設数が多いことが図3から明らかである。2階施設においてぶらり東通りでは13施設中8施設がエレベーターを設置している。

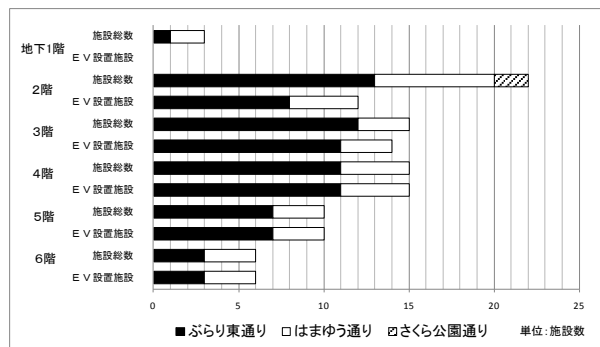


図3 昇降手段の実態

3-2. 店舗責任者アンケート調査結果

3-2-1. 対象者の属性（表5）

1) 性別

性別に関しては、男性の割合が高く、店舗責任者の73.1%が男性である。

2) 年齢構成

年齢構成に関しては、30代及び50代の割合が、26.9%と最も高く、40代が19.4%と30～50代の割合が全体の約7割を占めている。

表5 対象者の属性

	年齢構成							
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80以上	合計
男性	4	16	10	14	3	1	1	49
女性	7	2	3	4	1	1	0	18
合計	11	18	13	18	4	2	1	67

3-2-2. 店舗の属性

1) 営業年数（図4）

営業年数に関しては、1年以上5年未満と答えた店舗が27.7%と最も多く、次いで5年以上10年未満の店舗が21.5%という結果となった。このことから津田沼1丁目商店街の約半数の店舗は10年未満の短期営業の施設であることがわかる。

2) 利用者属性（図5）（複数回答可）

施設利用者に関しては、75施設中56施設でハンディキャップを持つ人の利用があるという回答を得た。その内「杖等の介助用品使用高齢者」という回答は51.8%で「車いす利用高齢者」は44.6%と高い割合を占めている。一方で、56施設中16施設においてハンディキャップを持つ人が利用しているかどうか把握していないという結果も明らかとなった。また利用者への対応として困ったことについては、「店内が混雑していると車いすが通るスペースが狭い」といった意見等があった。

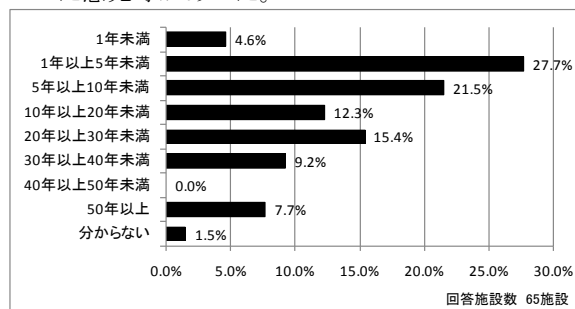


図4 営業年数

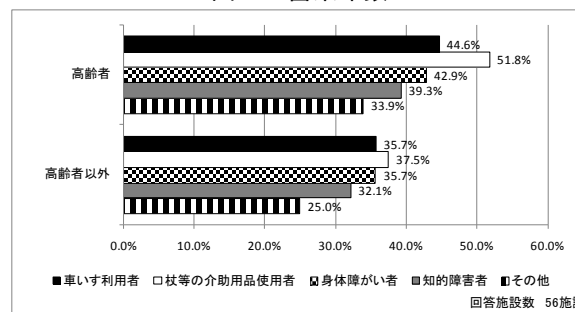


図5 利用者属性

3-2-3. 店舗のバリアについて（図6）

1) 1階施設の入り口部分の段差解消

1階施設（全43施設）中、店舗の歩道から入り口間において「段差解消を行っている」と答えた施設は52.8%である結果が明らかとなった。実際に行った目視調査において歩道から入り口間の段差を解消している施設は全体の約50%とほぼ同じ割合となった。このことから、バリア（段差）はないと店舗側に意識があると言えよう。また段差解消を行った時期については「営業当初から」と答えた施設が76.5%と最も多く、段差解消の取り組みへの意識の高さがうかがえる結果となった。

2) 複数階施設のエレベーター設置（図7）

地下及び2階以上の複数階施設（全32施設）の昇降手段においてエレベーターを設置していると回答した施設は80.6%であった。またエレベーターの「設置を行っていない」と回答した施設（全6施設）のうち今後設置する予定について「設置予定はない」と回答した施設が83.3%と最も多く、賃貸ビルで借りているため施設の都合で設置することは困難であるといった理由が多く挙げられた。

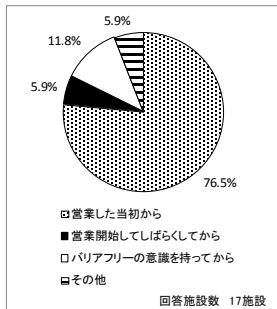


図6 段差解消時期

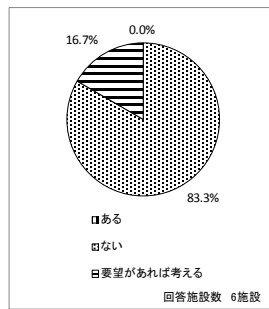


図7 エレベーター設置

3-2-4. 商店街のバリアについて（図8）

1) バリアの有無

商店街において「バリアがある」という回答が65.1%と最も多い結果となった。

2) バリアの種類（複数回答可）

商店街におけるバリアの種類については、「歩道の凸凹（段差）」「歩道の障害物（看板や自転車等）」「歩道の障害物（看板や自転車等）」等の物理的バリアについての回答が最も多く、「客引き・キャッチセールス」をバリアに感じるという心理的バリアの実態も明らかとなった。

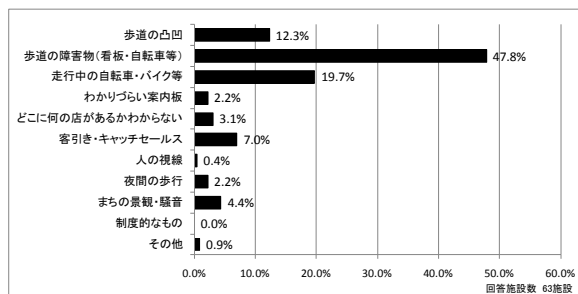


図8 商店街のバリアの種類

3-3. 聞き取り調査結果

3-3-1. 商店街への関心

1) 来街目的（図9）（複数回答可）

来街目的に関しては、「買い物」が男性、女性共に高い割合を示しており、男性46.3%・女性67.4%となっている。

2) 来街手段（図10）

来街手段に関しては、「鉄道（JR及び新京成）」がそれぞれ男性（27.7%・15.1%）女性（26.3%・9.5%）と高い割合を示しており、このことから商店街利用者は駅利用者が多いことがわかる。

一方で「徒歩」と回答した人も男性22.9%、女性25.3%となっており、近隣居住者の利用も多く見受けられる。

3) 再来街希望（図11）

再来街希望に関しては、各年代「また来たい」という回答が男性60.8%、女性72.6%と最も多く、津田沼1丁目商店街を頻繁に利用していることがわかる。このことから何度も訪れる利用者が多い、リピーターの多い商店街であると言えよう。

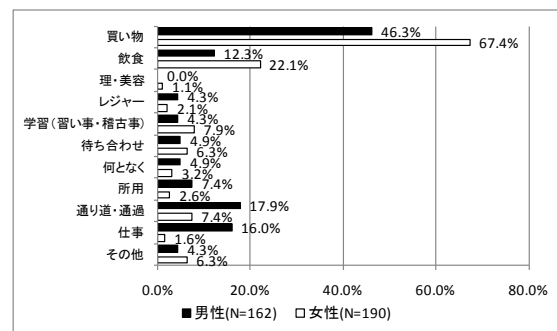


図9 来街目的

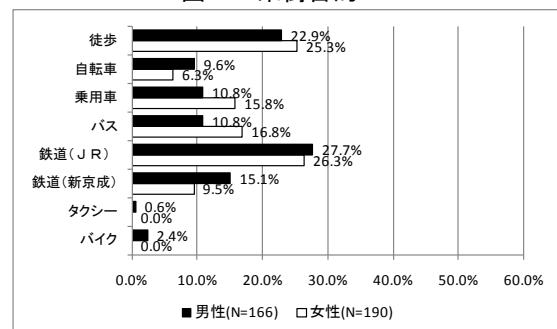


図10 来街手段

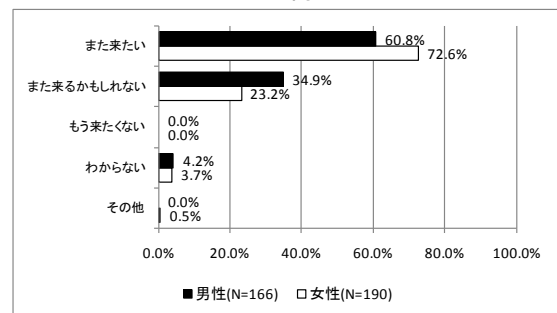


図11 再来街希望

3-3-2. 店舗のバリアについて（図12）

1) バリアの有無

店で感じるバリアに関しては、「感じる」という回答が全体の47.1%、「感じない」という回答が52.9%という結果が明らかとなった。

2) バリアの種類（複数回答可）

店でバリアを感じるという回答のうち、店で感じるバリアの種類に関しては、「入り口の段差」という回答が最も多く、次いで「階段」という回答であった。このことから店内で感じるバリアよりも外部からのアクセスにおいてバリアを感じているという実態が明らかとなった。

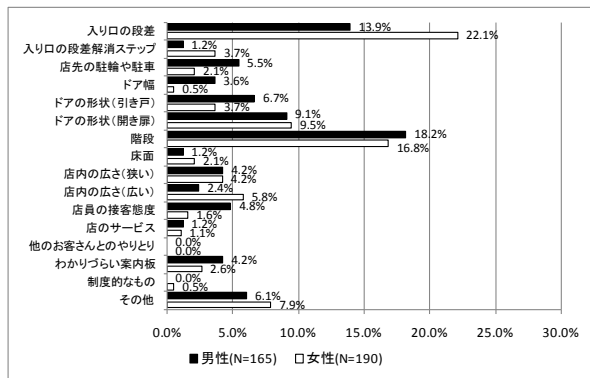


図12 店舗のバリアの種類

3-3-3. 商店街のバリアについて

1) バリアの有無（図13）

商店街で感じるバリアに関しては、「感じる」という回答が全体の79.7%、「感じない」という回答が20.3%という結果が明らかとなった。目視・実測調査から商店街には図13のようなバリアが存在し、利用者の回答と一致すると言えよう。

2) バリアの種類（図14）（複数回答可）

商店街で感じるバリアの種類に関しては、「走行中の自転車・バイク等」という回答が最も多く、その他「歩道の凹凸（段差）」、「歩道の障害物（看板や自転車等）」が挙げられた。

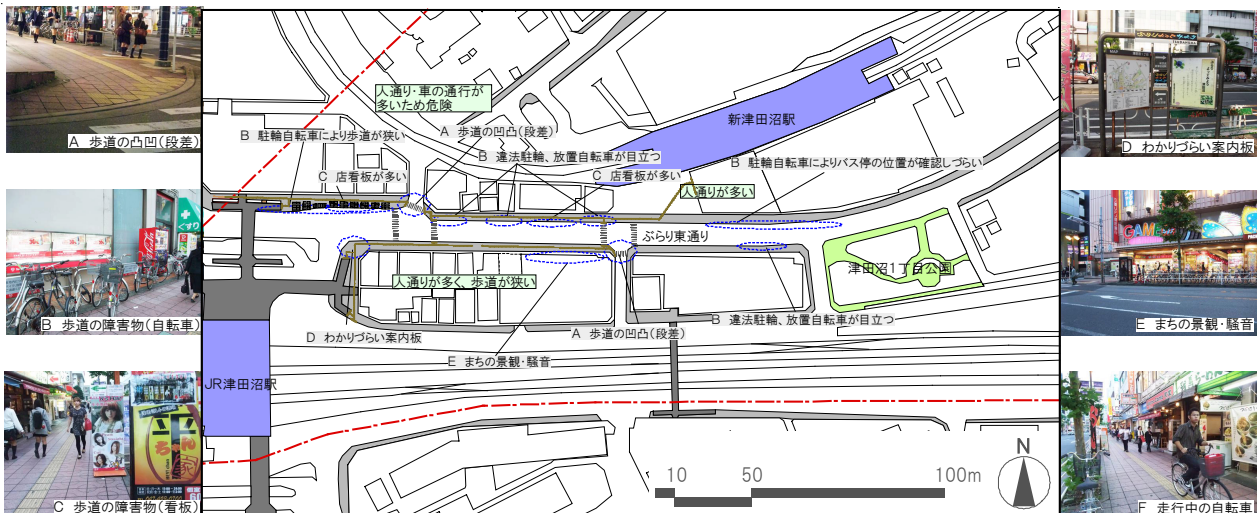


図13 商店街バリアマップ（ぶらり東通り）

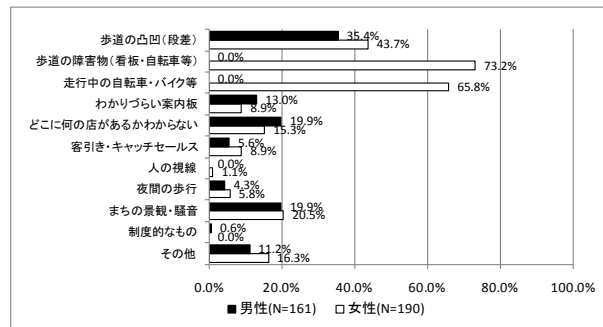


図14 商店街のバリアの種類

4. まとめ

調査対象地域である千葉県習志野市津田沼1丁目地区に関する基礎的知見を以下にまとめる。

- 1) 1階施設の段差解消率、複数階施設のエレベーター設置率は最も人通りの多い「ぶらり東通り」が最も高い割合を示した。ここから通りの利用率とBF化は比例するという傾向があると言えよう。
- 2) 津田沼1丁目商店街で営業している施設の店舗管理者に行ったアンケート調査から、調査対象地域において高齢者や障がい者の利用は多く、段差解消を営業当初より取り組んでいる施設が多いことが明らかとなった。しかしエレベーター設置に関しては賃貸なので難しいといった意見が挙げられた。
- 3) 商店街（外部空間）において店舗側、利用者側共に歩道の凹凸（段差）や歩道の障害物（看板や自転車等）の物理的バリアをバリアと感じる（図14）と回答した人が多かった。一方で走行中の自転車やバイクをバリアと感じると回答した人も多く個々のマナーの問題も明らかとなった。

本論文に関する既発表論文

- i) 野田りさ, 川岸梅和, 北野幸樹: 市街地空間におけるバリアの実態に関する研究—習志野市大久保地区をケーススタディとして— 日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ, No. 80, pp. 325-328, 2010. 3
- ii) 野田りさ, 川岸梅和, 北野幸樹: 市街地空間におけるバリアの実態に関する研究—(習志野市大久保地区をケーススタディとして)— 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 681-682, 2010. 9

参考文献

- 1) 「高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」
- 2) 「習志野市マスタープラン」
- 3) 田中直人, 「福祉のまちづくりキーワード事典ユニバーサル社会の環境デザイン」学芸出版社, (2006)
- 4) 榑木武, 「ユニバーサルデザインのまちづくりみんなに優しいまちを目指して」森北出版株式会社, (2005)
- 5) 「ぶらり津田沼散歩 MAP」津田沼一丁目商店会等発行